



小松左京のSFセミナー

小松左京
集英社(文庫)
(6/25刊・¥320)

本書は、基本的に、SFを初めて読む人、あるいは読みはじめたばかりの読者に対する、入門書として書かれている。SF大会の紹介にはじまり、「SF」とは何か(欧米SFの歴史を交えたもの)、日本のSF史(過去の経緯と現在)、各メディアのSF、そして本篇ともいふべき「SFは文学の原形質だ!」とつづく。もっとも注目されるのは、この部分である。文字や言葉の成り立ちから、SF的思考が「小説」と密接にかかわってきたこと(そして、決して高い位置を与えられなかったこと)、けれども、科学の時代である現在に至って、その重要性が増してきたことが語られている。これは、やがて書かれる「一般文学論」の序説となっているという。従来から、作者の述べてきた主張を、まとめた形である。

単なる入門に終わらない理論面も完備され魅力的な一冊に仕上げられている。強いて難を上げるなら、海外SFに関するアップデートな資料面だろう。最新の日本SFをカバーする内容だけに、ややアンバランスである(ところで、なぜ入門書四十六冊の中にレムが入っていないのですか)。